高知県の感染症対策

青島洋一郎　有山豊　上條隆昭　國枝紗希子
仲村尚司　橋田里妙　前田祐介

[背景・目的]

感染症の予防及び被害を大きくしない為の方法を考えるため、高知県が平成 11～15 年にかけて行った「第一次結核予防計画」と、平成 16 から国が行っている「第二次結核根絶計画」の概要とその結果を調べた。

[方法]

具体的な方法としては、感染症法や過去の結核予防法について学習しつつ、それを元に高知県庁健康福祉部健康づくり課や高知県須崎福祉保健所､高知市保健所などに高知県の結核対策，感染症対策，行政の役割，保健所の役割などについてインタビューすることで資料を集めた。そしてその資料から高知県の結核状況の経年変化と、結核対策の概要を知ることができ、それらを分析することで感染症の予防及び被害を大きくしない為の方法を考えた。

[結果]

資料から分かったことは、高知県の結核罹患率がかつては全国平均を大きく上回っていたが、効果的な定期健診および結核検診による患者の早期発見，医療機関内での結核発生を減らすための対策，適切な治療を施すことでその患者から結核に感染する人を減らすこと，患者に限らず多くの人に結核のことをよく知ってもらい、結核に対する問題意識を共有するための活動などを行うことで、現在では全国平均より優位な状況になるまで改善していることを知った。

[まとめ]

よってそのような対策が感染症の予防及び被害を大きくしない為に重要であると考えられるが、医療費の高騰などのしわ寄せを受けたからか、乳幼児や高齢者などの結核のリスクが高い人への定期健診と検診の徹底，医療機関内での結核発生が少なくならないことへのさらなる対策，患者から他の人に結核を感染させることがないように適切な治療を施すことなど、充分に成されていないことも多い。よって医療費をさほど圧迫しないであろう、結核に対する問題意識を共有するための活動や、限られた医療資源を適正に配分することで医療費を有効に使うなどといったことが今後はさらに重要になっていくものと思われる